

景況レポート

No.145

2023年10月～12月期



北見しんきん

〒090-8711 北見市大通東1丁目2番地1
電話(代) 0157-24-7531
URL: <http://www.shinkin.co.jp/kitami/>
本レポートはホームページでもご覧になれます。

景気動向

道内景気

日本銀行札幌支店が12月13日に発表した12月の企業短期経済観測調査結果(短観)によりますと、道内企業の景況感を示す業況判断指数(DI:「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値)は全産業で『12』となり、前回の調査『10』から改善しました。内訳では、製造業(前回▲3→今回2)は改善、非製造業(前回13→今回15)も改善でした。2024年3月までの全産業での先行き予測は6と、悪化の見通しです。

また12月13日に発表された道内の金融経済概況は次の通りです。道内の景気は、持ち直している。公共投資は、増加している。個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、着実に増加している。観光は、回復している。設備投資は、緩やかに持ち直している。輸出は、弱めの動きがみられる。住宅投資は、減少している。生産は、横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。雇用・所得情勢をみると、緩やかに改善している。

【公共工事請負金額】 前年を上回った。

【個人消費】 百貨店は、持ち直している。スーパーは、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに増加している。コンビニエンスストアは、増加している。ドラッグストアは、増加している。家電販売は、緩やかに持ち直している。乗用車販売は、持ち直している。サービス消費は、回復している。

【観光】 回復している。

【新設住宅着工戸数】 持家、分譲は、減少している。貸家は、低水準で推移している。

【生産(鉱工業生産)】 横ばい圏内ながら、一部に弱めの動きがみられる。主要業種別にみると、食料品は、横ばい圏内の動きとなっている。電気機械は、緩やかに持ち直している。輸送機械は、持ち直しの動きが一服している。紙・パルプは、低水準で推移している。

【雇用・所得情勢】 緩やかに改善している。

【消費者物価(除く生鮮食品)】 前年を上回って推移している。なお、前年比伸び率は前月比拡大した。

【企業倒産】 引き続き低水準で推移しているものの、このところやや増加している。

地区内景気

今回の当金庫の景気動向調査による北見地区の景況は、前年同期と比較したDI値は、売上高が▲14 と 16 ポイントの悪化、収益も▲18 と 7 ポイントの悪化でした。直前3ヵ月と比較した今後3ヵ月の見通しでは、売上DI値は▲28、収益DI値は▲31 となり、季節要因も加わって悪化の見通しとなっています。

特別調査【2024年（令和6年）の経営見通し】

当地方における2024年の経営見通しをお尋ねしました。

【日本の景気】

「良い」の回答合計は7.2%となり、昨年の調査(6.7%)から増加しました。一方、「悪い」の回答合計は63.6%となり、昨年の調査(75.1%)から減少しています。「普通」の回答合計は29.3%となり、昨年の調査(18.3%)から増加しています。

【自社の業況】

「良い」の回答合計は11.7%で昨年の調査と同程度、「悪い」の回答合計は46.4%(昨年57.8%)となり、昨年の調査から減少しました。「普通」は42.0%(昨年30.6%)となり、昨年の調査から増加しています。

【売上額の伸び率】

「増加」の回答合計は26.5%となり、昨年の調査(22.9%)から増加、「減少」の回答合計は32.6%(昨年42.7%)となり、昨年の調査から減少しました。「変わらない」は40.9%となり、昨年の調査(34.4%)から増加しています。

昨年と同様に、「減少」の回答合計が「増加」の回答合計を上回っています。

【自社の業況が上向き転換点】

「すでに上向きしている」は17.5%となり、昨年の調査(11.2%)から増加しました。

また、「業況改善の見通しは立たない」は35.6%となり、昨年の調査(32.4%)から増加しました。

【2024年における自社の販売価格と仕入価格見通し】

「緩やかな上昇(10%未満)」が販売価格で56.1%、仕入価格で65.6%と、ともに過半数を占め、いずれも全国の結果を上回り、次に「変わらない(一進一退など)」が販売価格で32.2%、仕入価格で16.1%となりました。

販売価格と比べ仕入価格の上昇傾向が大きく、全国の結果を上回っています。地域経済において仕入価格のさらなる高騰を警戒する企業の姿が浮き彫りとなりました。

【貴社では、2024年の日本の景気をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

《全国》		
1. 非常に良い	0.0%	0.2%
2. 良い	0.6%	1.9%
3. やや良い	6.6%	10.9%
4. 普通	29.3%	36.7%
5. やや悪い	43.7%	37.1%
6. 悪い	17.7%	11.7%
7. 非常に悪い	2.2%	1.6%

【貴社では、2024年の自社の業況(景気)をどのように見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

《全国》		
1. 非常に良い	0.0%	0.3%
2. 良い	0.6%	2.5%
3. やや良い	11.1%	14.0%
4. 普通	42.0%	49.1%
5. やや悪い	32.6%	26.6%
6. 悪い	11.6%	6.3%
7. 非常に悪い	2.2%	1.1%

【2024年において貴社の売上額の伸び率は、2023年に比べておおよそどのくらいになると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

《全国》		
1. 30%以上の増加	0.0%	1.0%
2. 20~29%の増加	1.1%	1.8%
3. 10~19%の増加	6.1%	10.1%
4. 10%未満の増加	19.3%	24.0%
5. 変わらない	40.9%	42.5%
6. 10%未満の減少	22.1%	13.8%
7. 10~19%の減少	6.6%	4.6%
8. 20~29%の減少	2.8%	1.3%
9. 30%以上の減少	1.1%	0.9%

【貴社では、自社の業況が上向き転換点をいつ頃になると見通していますか。次の中から1つ選んでお答えください。】

《全国》		
1. すでに上向きしている	17.5%	19.8%
2. 6か月以内	7.9%	10.7%
3. 1年後	12.4%	18.2%
4. 2年後	10.2%	11.8%
5. 3年後	10.7%	10.0%
6. 3年超	5.7%	7.1%
7. 業況改善の見通しは立たない	35.6%	22.5%

【近年、販売価格や仕入価格に上昇の傾向がみられますが、2024年を展望したとき、貴社では価格面の動向をどのように見通していますか。販売価格については1~5から、仕入価格については6~0から、それぞれもっとも当てはまるものを1つずつ選んでお答えください。】

《全国》		
(販売価格)		
1. 大幅な上昇(10%以上)	5.6%	5.5%
2. 緩やかな上昇(10%未満)	56.1%	51.5%
3. 変わらない(一進一退など)	32.2%	36.8%
4. 下落	2.2%	1.7%
5. わからない (自社には関係ないなど)	3.9%	4.5%
(仕入価格)		
6. 大幅な上昇(10%以上)	13.3%	14.8%
7. 緩やかな上昇(10%未満)	65.6%	60.0%
8. 変わらない(一進一退など)	16.1%	19.9%
9. 下落	1.1%	0.8%
0. わからない (自社には関係ないなど)	3.9%	4.5%

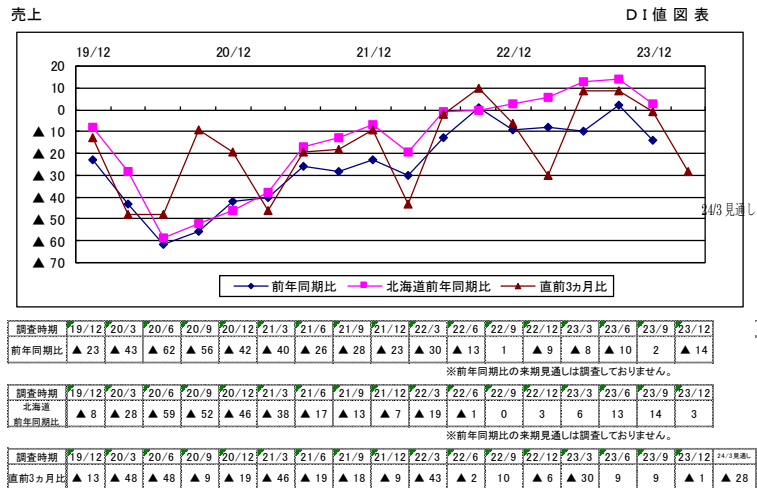
売上

調査対象先企業 181 社の売上を総体的にみますと、前年同期（22 年 10～12 月）と比較して「増加」した先 25%、「変わらず」の先 36%、「減少」した先 39%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲14 となり、前回調査より 16 ポイント悪化しました。

業種別で見ますと、全業種とも悪化となっています。

3 カ月毎の比較では悪化、今後 3 カ月も悪化の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。



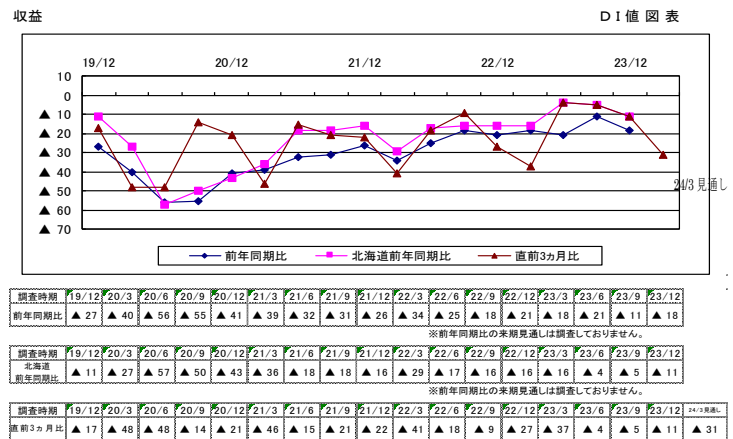
収益

調査対象先企業 181 社の収益を総体的にみますと、前年同期（22 年 10～12 月）と比較して「増加」した先 19%、「変わらず」の先 44%、「減少」した先 37%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲18 となり、前回調査より 7 ポイント悪化しました。

業種別で見ますと、建設業は改善、製造業・卸売業・小売業・サービス業は悪化となっています。

3 カ月毎の比較では悪化、今後 3 カ月も悪化の見込みです。

グラフに掲載している北海道の「前年同期比」のデータは、本調査と同時に全道の信用金庫によるお取引先を対象とした調査結果のもので、1 ページ目の日銀短観とは別の調査によるものです。



概況

調査先製造業全体の業況を前年同期(22年10~12月)と比較してみますと、売上で「増加」した先26%、「変わらず」の先32%、「減少」した先42%で、そのD I 値(増加割合-減少割合)は▲16となり、前回調査より6ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先16%、「変わらず」の先45%、「減少」した先39%で、そのD I 値(増加割合-減少割合)は▲23となり、前回調査より23ポイント悪化しました。

調査回答数(前年同期比)

		増加	変わらず	減少	D I 値
売上	前回(23/9)	11	6	14	▲10
	今回(23/12)	8	10	13	▲16
収益	前回(23/9)	9	13	9	0
	今回(23/12)	5	14	12	▲23

動向

【前年同期との比較】

売上、収益ともに悪化しました。

内訳をみますと、木材製品は売上・収益とも改善していますが、その他の業種は全般的に売上・収益ともに悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上は改善、収益は悪化しました。

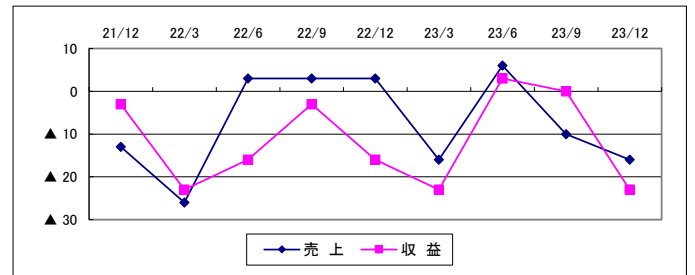
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「業務面で効率化を図り受注を減らした結果収益は減少傾向」、「原材料の高騰もあり厳しい営業環境を余儀なくされている」、「今期発売開始した商品の売れ行きが悪く、値下げにより在庫を消化した」、「今年は秋需が無く売上が低下している」、「人材確保が常に経営課題に挙がっている」といったものがありました。

前年同期比

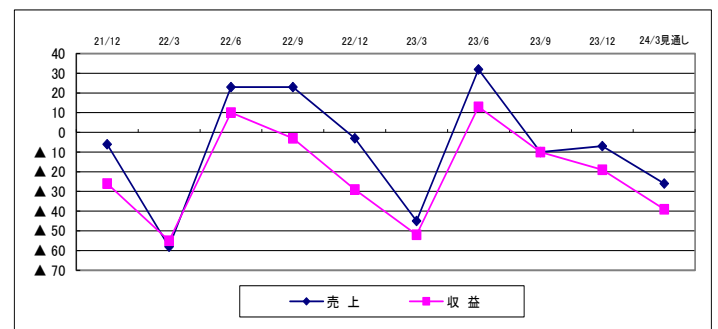
DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12
売上	▲13	▲26	3	3	3	▲16	6	▲10	▲16
収益	▲3	▲23	▲16	▲3	▲16	▲23	3	0	▲23

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3見通し
売上	▲6	▲58	23	23	▲3	▲45	32	▲10	▲7	▲26
収益	▲26	▲55	10	▲3	▲29	▲52	13	▲10	▲19	▲39

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	木材製品	建設関連	その他
売上額	7月~9月と比較	▲7	13	▲40	25	▲20
	1月~3月の見通し	▲26	0	▲30	▲25	▲60
収益	7月~9月と比較	▲19	▲13	▲40	▲13	0
	1月~3月の見通し	▲39	▲25	▲30	▲50	▲60
販売価格	7月~9月と比較	13	25	▲10	13	40
	1月~3月の見通し	7	▲13	0	13	40
原材料 価格	7月~9月と比較	58	88	30	63	60
	1月~3月の見通し	36	62	20	12	60
原材料 在庫	7月~9月と比較	0	0	▲20	0	40
	1月~3月の見通し	▲3	13	▲30	▲13	40
資金繰	7月~9月と比較	▲19	▲13	▲20	▲25	▲20
	1月~3月の見通し	▲23	▲25	▲30	▲38	20

概況

調査先卸売業全体の業況を前年同期(22年10~12月)と比較してみますと、売上で「増加」した先23%、「変わらず」の先45%、「減少」した先32%で、そのDI値(増加割合-減少割合)は▲9となり、前回調査より18ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先9%、「変わらず」の先59%、「減少」した先32%で、そのDI値(増加割合-減少割合)は▲23となり、前回調査より14ポイント悪化しました。

販売価格は「増加」した先55%、「変わらず」の先45%、「減少」した先0%で、そのDI値(増加割合-減少割合)は55となり、前回調査と同じでした。

調査回答数(前年同期比)

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(23/9)	7	10	5	9
	今回(23/12)	5	10	7	▲9
収益	前回(23/9)	5	10	7	▲9
	今回(23/12)	2	13	7	▲23
販売価格	前回(23/9)	12	10	0	55
	今回(23/12)	12	10	0	55

動向

【前年同期との比較】

売上・収益は悪化し、販売価格は横ばいでした。内訳をみますと、建設関連の売上・収益が大きく悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

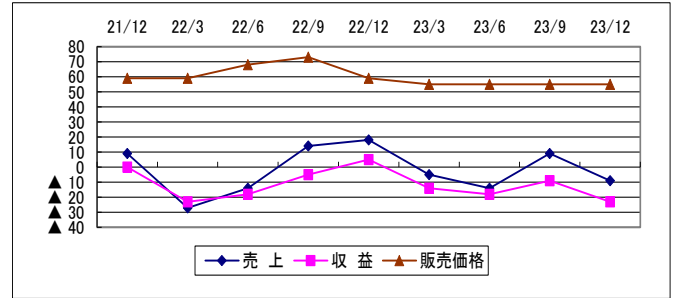
売上・収益は悪化、販売価格は下降しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益は悪化、販売価格は下降する見通しです。

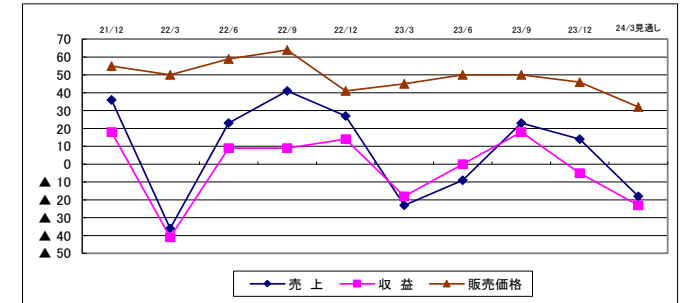
調査員のコメントには、「物価高騰・エネルギー価格高騰の影響により厳しい状況が継続すると予想」、「一般住宅の着工数伸び悩みにより受注面低調の見通し」、「大口案件の減少により収益面低調に推移」、「従業員の高齢化や人材確保が厳しく事業縮小もあり得る」といったものがありました。

前年同期比 DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12
売上	9	▲27	▲14	14	18	▲5	▲14	9	▲9
収益	0	▲23	▲18	▲5	5	▲14	▲18	▲9	▲23
販売価格	59	59	68	73	59	55	55	55	55

直前3ヵ月比 DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3見通し
売上	36	▲36	23	41	27	▲23	▲9	23	14	▲18
収益	18	▲41	9	9	14	▲18	0	18	▲5	▲23
販売価格	55	50	59	64	41	45	50	50	46	32

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	食料品	建設関連	その他
売上額	7月~9月と比較	14	83	0	▲29
	1月~3月の見通し	▲18	0	▲56	14
収益	7月~9月と比較	▲5	17	11	▲43
	1月~3月の見通し	▲23	▲17	▲56	14
販売価格	7月~9月と比較	46	50	44	43
	1月~3月の見通し	32	33	22	43
仕入価格	7月~9月と比較	50	67	44	43
	1月~3月の見通し	32	33	22	43
在庫	7月~9月と比較	0	▲17	11	0
	1月~3月の見通し	5	0	11	0
資金繰	7月~9月と比較	▲5	▲17	▲11	14
	1月~3月の見通し	▲5	▲17	▲11	14

概況

調査先小売業全体の業況を前年同期（22年10～12月）と比較してみますと、売上で「増加」した先32%、「変らず」の先29%、「減少」した先39%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲7となり、前回調査より27ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先27%、「変らず」の先31%、「減少」した先42%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は▲15となり、前回調査より17ポイント悪化しました。

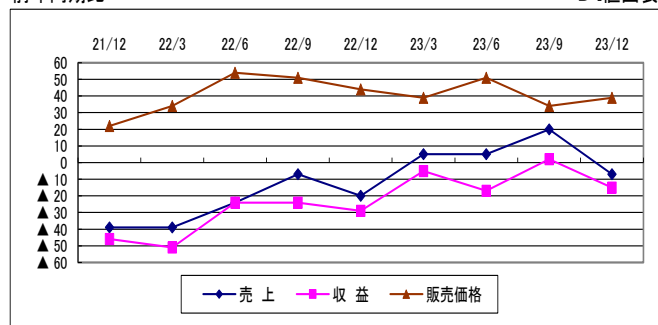
販売価格は「増加」した先44%、「変らず」の先51%、「減少」した先5%で、そのD I 値（増加割合－減少割合）は39となり、前回調査より5ポイント上昇しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変らず	減少	D I 値
売上	前回(23/9)	19	11	11	20
	今回(23/12)	13	12	16	▲7
収益	前回(23/9)	14	14	13	2
	今回(23/12)	11	13	17	▲15
販売価格	前回(23/9)	18	19	4	34
	今回(23/12)	18	21	2	39

前年同期比

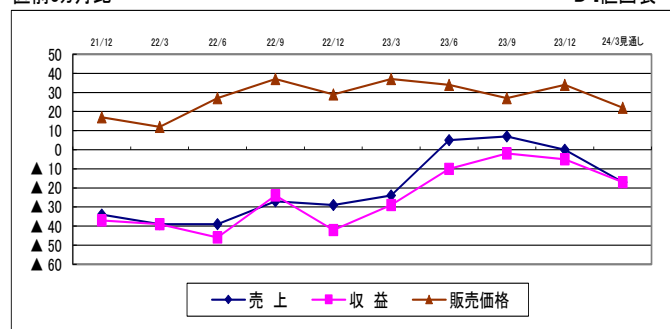
D I 値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12
売上	▲39	▲39	▲24	▲7	▲20	5	5	20	▲7
収益	▲46	▲51	▲24	▲24	▲29	▲5	▲17	2	▲15
販売価格	22	34	54	51	44	39	51	34	39

直前3ヵ月比

D I 値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3見通し
売上	▲34	▲39	▲39	▲27	▲29	▲24	5	7	0	▲17
収益	▲37	▲39	▲46	▲24	▲42	▲29	▲10	▲2	▲5	▲17
販売価格	17	12	27	37	29	37	34	27	34	22

動向

【前年同期との比較】

売上・収益は悪化、販売価格は上昇しました。内訳をみますと、衣料品・その他は売上・収益ともに大きく悪化しています。

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益は悪化、販売価格は上昇しました。

【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益は悪化、販売価格は下降する見通しです。

調査員のコメントには、「利益確保に向け原価管理や適正価格の見直しを行っている」、「人口減少やイベント縮小など業況は厳しい」、「物価高騰により個人消費が落ち込んでいる」などがありました。

直前3ヵ月比調査の業種別状況(D I 値による) (%)

項目	全体	衣料品	食料品	その他	
売上額	7月～9月と比較	0	▲33	13	0
	1月～3月の見通し	▲17	▲50	▲31	5
収益	7月～9月と比較	▲5	▲33	6	▲5
	1月～3月の見通し	▲17	▲50	▲25	0
販売価格	7月～9月と比較	34	33	44	26
	1月～3月の見通し	22	17	19	26
仕入価格	7月～9月と比較	66	83	81	47
	1月～3月の見通し	41	0	50	47
在庫	7月～9月と比較	▲10	▲17	0	▲16
	1月～3月の見通し	▲7	▲17	6	▲16
資金繰	7月～9月と比較	▲27	▲50	▲31	▲16
	1月～3月の見通し	▲27	▲50	▲31	▲16

概況

調査先建設業全体の業況を前年同期（22年10～12月）と比較してみると、売上で「増加」した先31%、「変わらず」の先21%、「減少」した先48%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲17となり、前回調査より14ポイント悪化しました。

収益は「増加」した先29%、「変わらず」の先28%、「減少」した先43%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲14となり、前回調査より17ポイント改善しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(23/9)	12	10	13	▲3
	今回(23/12)	11	7	17	▲17
収益	前回(23/9)	5	14	16	▲31
	今回(23/12)	10	10	15	▲14

動向

【前年同期との比較】

売上は悪化、収益は改善しました。

内訳のDI値の推移は以下のようになっています。

- ・ 土木売上：前回±0→今回▲33
- ・ 同 収益：前回▲17→今回▲25
- ・ 建築売上：前回▲6→今回▲12
- ・ 同 収益：前回▲35→今回▲12

【直前3ヵ月との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

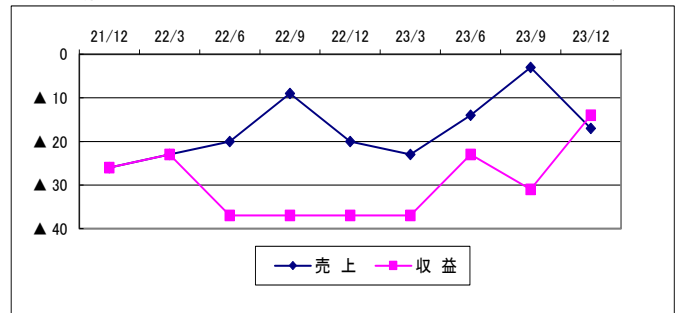
【今後3ヵ月の見通し】

売上・収益ともに悪化の見通しです。

調査員のコメントには、「受注が減少する中、施工業者は地元以外の地域から来ており競争が激化している」、「仕入価格の高騰により利益率減少」、「価格は上昇し実質賃金は下降傾向にあり先行き不透明」「人材確保が難しく外注業者含めて高齢化している」といったものがありました。

前年同期比

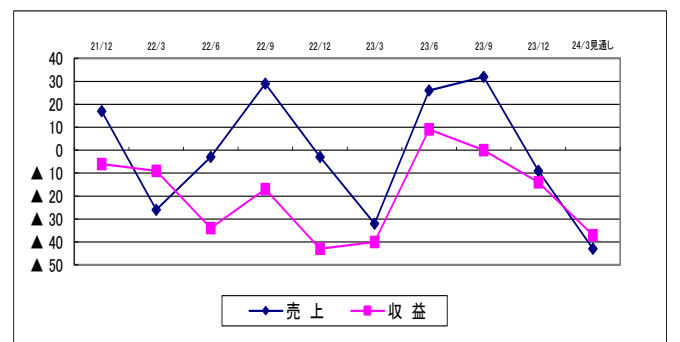
DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12
売上	▲26	▲23	▲20	▲9	▲20	▲23	▲14	▲3	▲17
収益	▲26	▲23	▲37	▲37	▲37	▲37	▲23	▲31	▲14

直前3ヵ月比

DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3見通し
売上	17	▲26	▲3	29	▲3	▲32	26	32	▲9	▲43
収益	▲6	▲9	▲34	▲17	▲43	▲40	9	0	▲14	▲37

直前3ヵ月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	土木	建築	その他
売上額	7月～9月と比較	▲9	▲17	6	▲33
	1月～3月の見通し	▲43	▲33	▲53	▲33
施工高	7月～9月と比較	▲6	▲17	6	▲17
	1月～3月の見通し	▲46	▲42	▲47	▲50
収益	7月～9月と比較	▲14	▲25	▲6	▲17
	1月～3月の見通し	▲37	▲25	▲41	▲50
請負価格	7月～9月と比較	23	17	29	17
	1月～3月の見通し	14	8	18	17
材料価格	7月～9月と比較	63	75	59	50
	1月～3月の見通し	57	67	53	50
在庫	7月～9月と比較	0	▲8	6	0
	1月～3月の見通し	3	0	6	0
資金繰	7月～9月と比較	▲9	▲8	0	▲33
	1月～3月の見通し	▲11	0	▲12	▲33

概況

調査先サービス業全体の業況を前年同期（22年10～12月）と比較してみますと、売上で「増加」した先16%、「変わらず」の先51%、「減少」した先33%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲17となり、前回調査より11ポイント悪化しました。

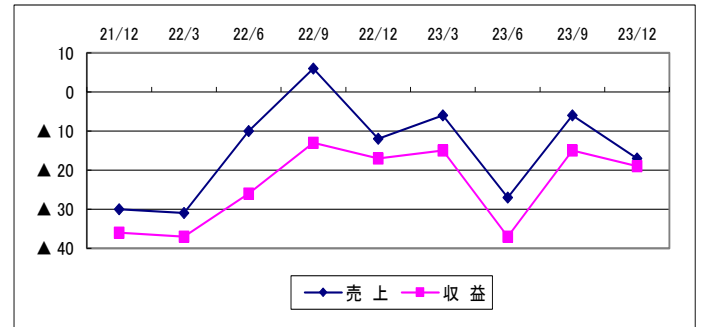
収益は「増加」した先12%、「変わらず」の先57%、「減少」した先31%で、そのDI値（増加割合－減少割合）は▲19となり、前回調査より4ポイント悪化しました。

調査回答数（前年同期比）

		増加	変わらず	減少	DI値
売上	前回(23/9)	14	21	17	▲6
	今回(23/12)	8	27	17	▲17
収益	前回(23/9)	10	24	18	▲15
	今回(23/12)	6	30	16	▲19

前年同期比

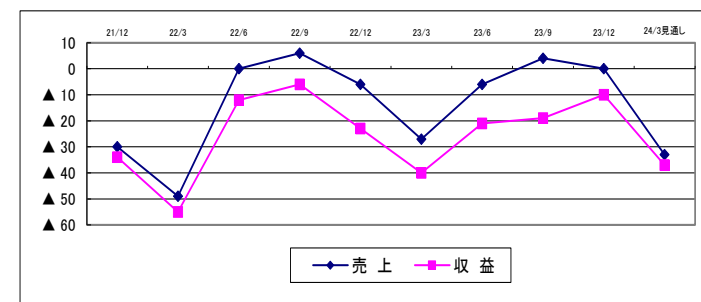
DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12
売上	▲30	▲31	▲10	6	▲12	▲6	▲27	▲6	▲17
収益	▲36	▲37	▲26	▲13	▲17	▲15	▲37	▲15	▲19

直前3か月比

DI値図表



調査時期	21/12	22/3	22/6	22/9	22/12	23/3	23/6	23/9	23/12	24/3見通し
売上	▲30	▲49	0	6	▲6	▲27	▲6	4	0	▲33
収益	▲34	▲55	▲12	▲6	▲23	▲40	▲21	▲19	▲10	▲37

動向

【前年同期との比較】

売上・収益ともに悪化しました。

内訳をみますと、車両関係は売上・収益とも改善、その他は売上・収益とも悪化しています。

【直前3か月との比較】

売上は悪化、収益は改善しました。

【今後3か月の見通し】

売上・収益とも悪化する見通しです。

調査員のコメントには、「人員確保できず売上高減少」、「価格改定を行い利益確保する」、「個人消費の落ち込みにより必要最低限で済ます方が多い印象」、「従業員の高齢化により人材の確保が必須」、「顧客の廃業による市場減少に関する対策を行う」といったものがありました。

直前3か月比調査の業種別状況(DI値による) (%)

項目		全体	理容美容	車両関係	その他
売上額	7月～9月と比較	0	▲38	7	7
	1月～3月の見通し	▲33	▲63	▲20	▲31
収益	7月～9月と比較	▲10	▲25	7	▲14
	1月～3月の見通し	▲37	▲63	▲27	▲35
料金価格	7月～9月と比較	15	13	13	17
	1月～3月の見通し	8	0	13	7
材料価格	7月～9月と比較	60	50	67	59
	1月～3月の見通し	42	50	40	41
資金繰	7月～9月と比較	▲15	▲13	▲27	▲10
	1月～3月の見通し	▲19	▲25	▲27	▲14

経営上の問題点 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	原材料高 58.1%	売上の停滞・減少 35.5%	人手不足 32.3%
卸売業	売上の停滞・減少 59.1%	利幅の縮小 27.3%	同業者間の競争の激化 22.7%
小売業	売上の停滞・減少 56.1%	商圏人口の減少 36.6%	人手不足 26.8%
建設業	人手不足 74.3%	材料価格の上昇 68.6%	売上の停滞・減少 42.9%
サービス業	売上の停滞・減少 40.4%	材料価格の上昇 38.5%	人手不足 26.9%

経営施策 【複数回答】

	1位	2位	3位
製造業	経費を節減する 58.1%	販路を広げる 45.2%	人材を確保する 41.9%
卸売業	情報力を強化する 54.5%	販路を広げる 50.0%	経費を節減する 50.0%
小売業	経費を節減する 78.0%	品揃えを改善する 36.6%	売れ筋商品を取扱う 29.3%
建設業	人材を確保する 65.7%	経費を節減する 51.4%	販路を広げる 48.6%
サービス業	経費を節減する 51.9%	販路を広げる 38.5%	人材を確保する 36.5%

【調査要領】

1. 調査地域 北見地方1市4町（北見市、置戸町、訓子府町、美幌町、津別町）
2. 調査時点 2023年12月
2023年10月～12月期の実績および見込み
2024年1月～3月期の見通し
3. 調査対象企業 当金庫お取引先181社（任意抽出）
回答企業数 181社
回答率 100%
4. 調査方法 調査表による訪問聞き取り調査
調査表は信金中央金庫が実施する「全国中小企業景気動向調査」と同一のものを使用
5. 業種別回答企業数

製造業	卸売業	小売業	建設業	サービス業	合計
31	22	41	35	52	181

6. 分析方法 各質問項目を100分比に換算し、パーセント（%）数値による分析を行いました。また、好転か悪化の傾向をみる方法として、「増加割合－減少割合＝判断指数（DI値）」で分析を行いました。

企業の経理事務を便利にサポート
インターネットバンキング
WEB-FB

- 総合振込 ■給与・賞与振込 ■都度振込 ■口座振替 ■入出金明細照会 ■残高照会

低コスト！

インターネットが使える環境さえあれば、すぐにご利用が可能です。
 専用ソフト、専用端末などに余計な経費をかけません。

効率的！

総合振込、給与・賞与振込、都度振込、口座振替業務がインターネット経由でスピーディにご利用いただけます。
 振込や振替のデータは外部ファイルから取り込むこともできます。

便利！

登録先の口座以外でも当日振込が可能です。急な振込がオフィスのパソコンから随時できるので便利。
 また、振込完了や為替エラーなど、重要な連絡を電子メールでタイムリーにお知らせします。

安心！

一般者用ID、承認者用ID、管理者用IDの3つのIDで権限設定が可能です。
 登録したデータの承認を貴社の管理者がダイレクトにできるため、厳密なチェックが可能です。
 電子証明書とワンタイムパスワードにより、安全にご利用いただけます。

オホーツク圏経済情勢報告（令和5年10月判断）概況

	前回(5年7月判断)	今回(5年10月判断)	前回比較	総括判断の要点
総括判断	持ち直しつつある	持ち直しつつある 【判断の据え置きは、令和5年7月判断に続き2期連続】	⇒	個人消費は、物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある。 観光は、緩やかに持ち直している。 また、雇用は、緩やかに持ち直しつつある。

	前回(5年7月判断)	今回(5年10月判断)	前回比較
個人消費	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある	物価上昇の影響がみられるものの、持ち直しつつある	⇒
観光	持ち直しつつある	緩やかに持ち直している	⇒
雇用	持ち直しのテンポが緩やかになっている	緩やかに持ち直しつつある	⇒
公共事業	前年を下回る	前年を下回る	⇒
住宅着工	前年を下回る	前年を下回る	⇒

先行き	先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要がある。
-----	--

(注)5年10月判断は、前回7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。